



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

病気の豆知識 「春先に増える目のトラブル」

眼科 石橋 誠一

今年も花粉症の季節が到来しました。2～5月に飛散する花粉はスギ、ヒノキ科、などになります(表1)。眼症状として、最も多くみられるのは眼掻痒感ですが、そのほか軽症例では眼疲労感、眼乾燥感など、重症例では異物感、充血、灼熱感、流涙などの症状がみられることもあります。治療の基本は、抗原回避を主体とするセルフケアと抗アレルギー薬を中心とするメディカルケアとなります。

セルフケアとしては外出時の花粉回避と、室内花粉量の減量になります。マスクの着用やゴーグル型眼鏡装用が効果的です。ファッション性に優れたゴーグル型通販で購入可能ですし、患者様に院内のコンビニエンスストアにベーシックな形のものも置いてありますのでご興味のある方はご覧ください。室内の花粉量を減少させるためには、窓や戸を閉め、外出時の衣服、外に干した布団などにより花粉を室内に持ち込まないことが重要です。

メディカルケアの初期療法としては、原因花粉の飛散開始が予

想される日の約2～4週間前から抗アレルギー薬を投与する季節前投与法があります。自覚症状と発現期間が短縮され、季節中の自覚症状が軽減されることが予想されます。

花粉飛散期の薬物療法としては、抗アレルギー一点眼薬の投与が有効です。結膜炎症状が強く出る症例には消炎を目的として副腎皮質ステロイド薬を併用することもあります。

■花粉飛散時期(表1)

花粉	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
スギ													
ヒノキ													
ハンノキ													
シラカンバ													
オオアワガエリ													
カモガヤ													
ブタクサ													
ヨモギ													

リレー通信 病院ボランティア「けやきの会」

会員が多数受賞しました

病院経営課

長年にわたり外来患者さんの受診受付のお手伝いや、車椅子での移動の介助、院内の案内などのボランティア活動の功績を称え表彰されました。

◇第19回ふくしまボランティアフェスティバル

知事表彰4名、知事感謝1名、福島県社会福祉協議会会長表彰3名、福島県社会福祉協議会会長感謝2名

◇第12回福島市社会福祉大会

社会福祉活動優秀者4名

会員の皆さんは常に患者さんの立場で親切に接して下さっています。

その元気な笑顔が来院する患者さんの気持ちを明るくしています。会員の皆さんがいつまでも元気でいてくださることが病院の願いです。



第37号
の
な
か
み

1ページ… ○病気の豆知識「春先に増える目のトラブル」

○リレー通信「けやきの会」

2ページ… ○高エネルギー放射線棟(放射線治療科)の放射線治療機器が更新されました!

○「食事療養の変遷とこれから」

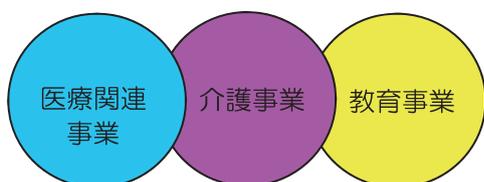
3ページ… ○平成28年度病院長特別表彰が授与されました

○退任挨拶

4ページ… ○パンダハウスの増築について

○また会おうね、ハッピードール!

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町6-6 UNIXビル3F
Tel 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店 (エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店 (7号館内)
ローソン福島県立医科大学津医療センター店

高エネルギー放射線棟 (放射線治療科) の放射線治療機器が更新されました!

放射線治療科 部長 鈴木 義行

放射線治療科では、この度、11年ぶりに体外照射用放射線治療機器 (ライナック) を更新いたしました。放射線治療は、近年のテクノロジーの爆発的進歩に伴い急速に進化しています。多方向から放射線を集中させる定位照射やコンピューターを駆使し複雑に線量・照射範囲を調節する強度変調療法 (IMRT) などの、いわゆる“高精度放射線治療”が全国的に標準治療となりつつあります。当院では機器の更新がしばらく無かったことから、その進化の波に乗り遅れておりましたが、今回の機器更新により、“高精度放射線治療”が適応となる患者さんのほぼ全て (放射線治療患者全体の約40%程度と想定) に対応できるようになります。高精度放射線治療は、腫瘍への線量を増加しながら正常組織への線量を減らすことが出来ることから、制御率の上昇と

有害事象 (副作用) の減少が期待できます。適応疾患など、お気軽に放射線治療科までご相談ください。



治療室 A に設置された最新型ライナック

「食事療養の変遷とこれから」～栄養管理業務28年を振り返って～

栄養管理部 栄養指導係長 真田 久美子

当院が現在の光が丘に移転開業したのは昭和62年6月1日でした。その当時の話ができる人は職員ではもう数えるほどしかいなくなっていました。

それまでの病院給食は一般的に (夕食時間が) 早い、 (ご飯が) 冷たい、 (食事が) まずいといわれ、改善すべき点が多いものでした。昭和33年に基準給食制度 (病院給食の費用が全額健康保険) を適用するようになってから36年後の平成6年に、病院給食が入院時食事療養となり、患者の自己負担制度が導入されるとともに、特別管理加算 (適時、適温) が加わることで、早い、冷たいは一応制度的には改善されてきています。

移転と同時に保温トレイを使った適温給食と夕食午後6時の適時配膳を目的に栄養士は1名増員されて6名となり、新たに遅番勤務が始まりました。この保温トレイは平成24年3月に保温・保冷配膳車に移行するまで使いましたので記憶されている方も多いと思います。

栄養管理係で管理栄養士が係長になったのは平成20年で、平成23年には事務部門と中央診療部門との兼務となりました。栄養士で係長を任された自分にとってこの9年間は本当に目まぐるしく、初めの1年間は悪戦苦闘の毎日でした。栄養管理を何とか助けてくださいと当時栄養管理委員会の担当だった村川先生に直訴にいった記憶があります。

このような状況から、平成20年12月に栄養管理業務改善計画を立ち上げ、調理師と栄養士の協同病棟訪問を開始したり、外部機関による食事アンケート調査を実施したり、

保温トレイを温・冷配膳車に変更したり、さらに厨房に冷暖房設備を入れていただいたりと施設環境整備を行ってきました。お陰さまで、夏場汗がしたたる厨房環境を変えてもらい、何度も着替えなくてよくなったと調理師さんに御礼を言われたことがありました。

医大病院はここに来られる患者さんにとって最後の砦となっております。その中で栄養管理系の業務は患者さんにとって、病院の中で唯一楽しみを与えることのできる業務です。そのためにはスタッフもプロフェッショナルになることが大事と考えています。給食管理や栄養指導に誠意をもって間違いなく丁寧な仕事を続けていけば、気持ちが通じて患者さんからも御礼の言葉をいただけるし、双方の満足感に繋がるのではないのでしょうか。少子・高齢化が進む社会の中でこれから何が求められていくのか、伝統のある福島医大の先駆者の知恵を学んでいくことの必要性を日々感じています。



附属病院の経営改善や業務改善、あるいは事故の未然防止、教育・研修・診療等に特に努力し、それぞれ功績が顕著な団体等に毎年、病院長特別表彰を授与しています。

今年度は次の5団体に決定し、3月8日に表彰式が行われました。

◆医療情報部

平成28年5月より開始した第3次総合医療システムの稼働や、その順調な運営のため尽力し、業務改善に多大な貢献をしました。

◆災害医療部

平成28年4月の熊本地震への支援の際に、支援の指揮監督の要として、現地での円滑な支援活動に多大な貢献をしました。

◆麻酔・疼痛緩和科

安全管理体制の更なる充実のためにインシデント対策に積極的に取り組み、重大な事故の発生の未然防止に努めています。

◆外来化学療法センター

附属病院の抗がん剤の投与件数の増加に積極的に取り組み、経営改善や業務改善に多大な貢献をしました。

◆総務課施設係

附属病院の改修や修繕など、各種工事の実施にあたり、迅速かつ適切な対応を行い、院内の環境整備に寄与しています。また、平成28年12月のふくしまいのちと未来のメディカルセンター棟の開設にあたって、多大な貢献をしました。



退任挨拶

呼吸器内科 部長 棟方 充

呼吸器内科の棟方です。医大附属病院での18年の任期を終え、この3月で定年退任となります。病院の皆さまには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

呼吸器内科は附属病院の診療科として1999年に新設されました。最初は今の形成外科外来のある病理部の奥に住み、病棟は4階東に10床を頂き、放射線科と一緒にでした。その後4階東はICUに改修されることになり、呼吸器内科は院内をジプシー状態で回っていました。その後、呼吸器外科と共に7階西に定住して診療するようになりました。しかし、昨年から再び移動となり、現在は8階で泌尿器科とともに患者さんを見ています。病床が少ないので院内5-6ヶ所に患者さんが居られ、回診は病院を一巡するような状態です。何か運命的なものを感じます。

附属病院では、2007～2012年にかけて副病院長を、

2012～2014年には病院長を務めさせて頂きました。附属病院の職員の皆さんには、患者さんのために、本当に一生懸命に仕事をして頂き、心より感謝申し上げます。

4月からは、理事長の御命令で、会津医療センター附属病院長として再び病院経営に携わることとなりました。これまでの経験を生かして、良い病院作りに励みたいと考えております。皆さまの今後益々のご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。





福島医大病院ニュースレター

パンダハウスの増築について

認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会

「パンダハウス」は、闘病中のお子さんやご家族のための「病院近くの我が家」として、建設から20年を経過し、今までで約28,000人にご利用いただけてきています。現在のハウスは、居室が部屋と限られていたり、ダイニングルームをボランティアの方々やスタッフの活動の場として使用したりしていたため、利用者の方々にはご不便をおかけしておりました。しかし、この度、皆様のご支援をいただき、増築の運びとなりました。医大附属病院での夏と冬のバザーをはじめ、募金やご寄附をくださった

方々、本当にありがとうございました。春には新しいハウスが完成し、ボランティアの方々の活動スペースもできます。利用者の方々には、今まで以上にゆったり休んでいただけるようになると思います。

さらに支援の輪が広がるよう、多くの皆さまとつながることができることを願っております。どうぞ、新しいハウスにお気軽にお立ち寄りください。

増築完成予定図



また会おうね、ハッピードール!

須賀川支援学校医大校 教諭 真鍋 久美子

医大分校では、父母と教師の会主催の「親子集会」を年2回実施しています。今年度は、7月に福島ユナイテッド FC の選手と体を動かした第1回目に続き、2月の第2回目にWonder Art Production (代表 高橋雅子氏)から講師陣をお招きして、マスコット制作活動“Happy Doll Project”を行いました。

入院中の方やご家族、病院職員の皆様などが制作したハッピードールマスコットを、次の病院へとリレーして心を繋ぐこのプロジェクトは、これまで国内に留まらず、アメリカや南アフリカを含む80カ所以上で展開されました。医大校だけでも今回3度目、県立医大附属病院旧4階西病棟での活動を合わせると5度目にもなる、すっかりお馴染みの催しです。

児童生徒と保護者たちは、力を合わせて味わい深く個性豊かな作品を仕上げ、とても満足な様子でした。児童生徒は保護者の知恵や工夫を、保護者は児童生徒の意外な成長ぶりをそれぞれ目の当たりにしたとのことで、互いへの尊敬や感謝の気持ち、そして愛情をことさら強く感じられたようでした。「普段は親子揃って何かを作る経験が少ない」とおっしゃる方も多いのですが、この活動を通して、心温まる時間を分かち合っていただけとしたら何より嬉しいことです。

思いを託したハッピードールたちは、講師の方々と一緒に“Happy Doll Project”開催各地を巡る1年間の旅に出かけます。色々な出会いを経て、無事1人ひとりの元に帰って来てくれますように!

本活動の実施に際しましては、病院各方面の皆様にご協力いただき、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやパストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

